

見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち

October 2019

October						
S	M	T	W	T	F	S
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

いせわんたいふうじゅんなんのとう ◆伊勢湾台風殉難之塔

所在地：弥富市西末広町

交通：弥富市コミュニティバス

「西末広」停 西約800m

昭和34（1959）年9月26日、当時史上最大とも言われ、5,000人以上の犠牲者を出した伊勢湾台風がこの地域を襲いました。現在の弥富市の市域でも300人を超える方々が犠牲となり、中でも鍋田干拓地では、300名あまりの在住者のうち133名が命を落としています。（2017.7月号参照）

鍋田干拓地では、南部海岸堤防の10か所以上が決壊し、北部の東西末広及び境地区などと接する護岸堤防も13か所にわたって決壊しました。その結果、一帯は寸断されて海中に孤立し壊滅的な被害を受けます。高潮襲来時の水位は、2階建ての屋根の軒先付近かそれ以上に達したところもあり、家畜も田畑も建造物も、そして人命までも、一瞬のうちに深夜の濁流にのみ込まれてしまったのです。

この鍋田干拓地の入口の末広地区には、伊勢湾台風殉難之塔が建てられています。塔は犠牲者の慰霊のために昭和38年に建てられたもので、頂上には青銅製の観音像が安置され、向かって左側には母親が流木の間から愛児を抱き上げ頬ずりして喜ぶ像（明像、写真中）が、右側には父親が変わり果てたわが子を自衛隊員の助けを得て収容している像（暗像、写真右）が配置されています。

碑文は以下のとおりで、被害の悲惨さや犠牲者の慰霊の思い、救援への感謝など、塔の建設理由が記されています。「とき昭和三十四年九月二十六日による 史上最大といわれ

た伊勢湾台風が異例の高潮を伴って当地方に来襲し荒れすさぶ怒濤は瞬時に堤防を決潰させ多くの家屋家財を押し流しあまつさえ弥富町住民三百二十二名の尊い人命を奪い去つた風速四十五メートルの烈風と五メートル三十一（名港基準面上）の高潮が渦巻く濁流の暗闇に親を呼び子を求める悲鳴も空しく当時の惨状を偲べば語る者も聞く者もひとしく涙にむせぶばかり一悲惨の極みである」「ここに殉難者の御霊安かれと念じ泥海の中で衣食に窮した生活八十余日に及ぶ大自然の猛威を吾々の心のいましめとして後世に語り継ぎ全国及び海外の各地から寄せられた温い救援の好意を謝するため広く浄財を募り伊勢湾台風殉難之塔を建設して永く慰霊のまことを捧げる」

なお、同じ敷地に村上冬燕の句碑もあります。冬燕は名古屋在住の医師で、伊勢湾台風の後には、名古屋鉄道病院の派遣医師として田舟に乗って巡回診療を行っています。山口誓子門下の俳人でもあった冬燕は、巡回診療の際に、舟の下に実った稲穂を見て心を痛み、「洪水の底にて稲穂靡くかたち」の句をしたためました。碑の横には「舟で行く。水の下には稔った稲穂がぎっしり。水の流れによってその穂が一斉に動く。風に靡くのとそっくり。水中の稲穂よあわれ」と文学碑建設実行委員会による解説があります。



◆災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していただくとともに、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。

◆伊勢湾台風殉難之塔の周辺には…

● なべたしんめいしゃ 鍋田神明社

所在地：弥富市鍋田町

交通：弥富市コミュニティバス「鍋田」停南東約 1.3km

鍋田神明社は伊勢湾台風の10周年記念事業の一つとして、昭和44（1969）年に造営されました。当地には現在、「伊勢湾台風殉難之碑」と「伊勢湾



台風殉難者慰霊観音」があります。

● はっぼしんでん 八穂新田（八穂地蔵）

所在地：弥富市鍋田町

交通：弥富市コミュニティバス「鍋田」停北約 250m

八穂新田は江戸時代の末から干拓が行われましたが、嘉永7（1854）年安政東海地震と翌年の暴風雨で亡所となったとされています。明治8（1875）年にこの地で地蔵が引き揚げられ、約90年間、八穂新田の地蔵として安置されてきましたが、伊勢湾台風後の昭和38（1963）年に、この地に移されました。



● ごみょうわじゅう 五明輪中

所在地：弥富市五明町 交通：JR関西本線「弥富」駅西約 500m

宝永4（1707）年宝永地震の際に、堤防がごとごとく崩れ、一面海になったと伝えられています。また、この翌年の宝永5年から正徳5（1715）年にかけて5度の高潮・高波による被害にあっています。



◆詳細な地図は『歴史地震記録に学ぶ防災・減災サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をご覧ください。

★金魚日本一大会

弥富市は金魚の品種数、養殖池面積、売上高が日本で、弥富金魚（津島市、愛西市などで生産された金魚も含む）は日本の金魚の全品種が揃う一大産地です。金魚日本一大会は、弥富金魚漁業協同組合の主催により、海南こどもの国で毎年10月第4日曜日に開催される、金魚の大会です。（令和元年は10月27日）

全国から愛好家が集まって金魚の美しさを競い、日本一大賞を始め、農林水産大臣賞、愛知県知事賞などが選定されます。入場料無料で一般観覧ができるほか、金魚すくいのイベントも用意されています。



神畑養魚株式会社 HP より

あいちの農産物

みつばはセリ科の多年草で、β-カロテンを多く含む緑黄色野菜です。薬味やお吸い物、茶わん蒸しなどに好んで用いられます。



愛知県園芸農産課HPより

原産は日本で、江戸時代から栽培が始まり、現在ではハウスでの水耕栽培が主流で、周年出荷されています。

愛知県では尾張南部地域で水耕栽培が盛んで、全国有数の産地となっています。

●ブレイクタイム●

♪ 弥富の白文鳥

文鳥は元治元（1865）年頃、弥富に来たと言われており、明治時代に突然変異により白文鳥が生まれました。生産者は近年減少していますが、現在でも「文鳥の聖地」と呼ばれており、文鳥飼育が始まったとされる又八地区には、白文鳥発祥の地の碑があります。

弥富市歴史民俗資料館のロビーでは白文鳥の「ぶんちゃん」が飼育されており、人気を集めています。また、文鳥の「ぶんちゃん」として弥富市のゆるキャラにもなっています。



（上）愛知県 HP より
（右）Wikipedia HP より



◆この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaisan2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆県内の歴史地震記録をホームページで紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『歴史地震記録に学ぶ防災・減災サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をぜひご覧ください。

（発行：減災の会・名古屋大学減災連携研究センター 令和元年10月）